

令和5年度 かながわティーチャーズカレッジ

COLLEGE NEWS

カレッジニュース



令和6年1月14日 発行
神奈川県立総合教育センター
かながわティーチャーズカレッジ事務局
(教育人材育成課キャリア開発班)

第10回 かながわ教育学講座

令和5年12月17日、第10回かながわ教育学講座が開催されました。第10回教育学講座では午前中、希望の校種・教科等に分かれての模擬授業「授業づくりを学ぶ③」、午後から「学校教育における人権」をテーマに講義を受け、グループ活動を行いました。

模擬授業・協議「授業づくりを学ぶ③」

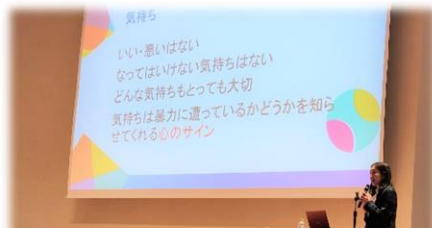
前回の「授業づくりを学ぶ②」では模擬授業後にグループでよりよい授業に向けての協議を行いました。そこでのアドバイスを基に自分の授業を見直し、「授業づくりを学ぶ③」に臨みました。「授業のねらい」は的確か、「ねらい」につながる効果的な導入となっているか等、各グループとも前回よりも更に広い視点で授業について協議する様子がありました。第12回、第13回のかながわ教育学講座ではグループごとの授業発表を行う、授業づくりの集大成になります。今までの講座で学んできたことや、実際の学校現場での子どもたちの姿から、自分の授業をしっかりとつくっていきましょう。

講義・グループ活動「学校における人権」



講義では、認定NPO法人エンパワメントかながわの講師より「学校教育における人権～子どもの人権、自分の人権～」について話がありました。「暴力の構造」や「暴力の連鎖を断ち切るために」等について説明がありました。その中では、小学生を対象に行われている子どもへの暴力防止プログラムなどが紹介されました。演習では、小学生の日常から「子どもの人権を守ること」について考えました。また、講師から「子どもの人権を守る」ために、「まず、自分自身の人権を守る」「自分で自分を大切にしていこう」というメッセージが送られました。

講義の内容を受け、グループ活動では、子どもの抱えている問題とその背景について考え、子どもの人権を守るために、教員として心掛けることは何かを話し合いました。互いの感じ方や考え方の違いを知ること、一人ひとりが人権感覚を磨くとともに、人権とは「すべての人は対等である。」「一人ひとりが違っていい。」ということを改めて学びました。「子どもの人権を守ること」は、「子どもの心の声を聞き続け、その思いを受け止め認めること」であり、そうした姿で子どもと接していくことが「子どもの人権を守ること」において大切であると学びました。



受講者のワークシートより

《オープンコース》

大学では同じメンバーの前でしか行われなため緊張感があまりないが、今回初めて、初対面の人の前で授業を行い、自分が緊張しているときの傾向がわかり、これから練習していきたいと思った。今回の講座で、生徒とのやり取りの大切さも感じた。他の人の授業を聞いている中で、このようにすると生徒にとってわかりやすいのだなと気付くことが多かったため、次の模擬授業で工夫をしていきたい。指導案の書き方も学べたので、次回から生かしたい。

《チャレンジコース特別支援》

自分の中では上手に作成できた資料だと思っても、他の人たちから見れば指摘ばかりの内容だったことに気が付いた。自分が納得したものについて、本当にこれで良いのかと考える癖を付ける必要がある。他の人に学習指導案や資料を見てもらい、客観的な視点や様々な意見を取り入れたいと考えた。また、他の人の模擬授業を見て、参考にしたい部分は取り入れ、課題だなと思った行動は取り除くなど、様々なスキルを参考にしたいと考えた。

《チャレンジコース中学校英語又は高等学校英語/中学校国語又は高等学校国語》

模擬授業を通して、「目標に向けてすべてのアクティビティに意味を持たせる」ということがどれほど大切か学んだ。授業に一貫性を持たせることで、生徒の理解度が高くなるとともに授業への意欲も上がると感じた。そして生徒の興味、関心、意欲を上げるためには、生徒が新しい学びを得ることが大切だと分かった。自ら学びを発見したり、教師や友だちから学びを得たり、自分が知らない情報を知ることは楽しさや達成感など刺激が多いと感じた。そのため、これから模擬授業をする際は、この刺激を大切にしたいと思う。そしてその刺激を多く与えられるように、生徒にどのように情報を伝えるかを意識しながら授業づくりをしようと思う。

《チャレンジコース小学校》

今回は、子どもの人権について学びました。私たちのグループでは、「差別」について取り上げて考えました。学校現場では、性別、人種、宗教、障がい等をはじめとしてあらゆる面で何かしらの差別があり、被害にあっている人が多くいるということを改めて考えました。そのような差別をなくすために、子どもに正しい知識と理解、認識を日頃から伝えることが大切だと考えました。また、身の回りで偏見や差別にあったとき、周りの人たちと皆で考え、行動していく勇気も必要だと思いました。これからも人権問題に関する知識を深めていきたいです。

いじめはダメ、暴力はいけない等と言わずに、自分の人権のありがたさや存在を再認識させることで、いじめをやめようとする子どもが増える、といったやり方もあるのだなと驚かされた。先生が子どもにダメと言っても何故かを理解できないと腑に落ちず、いじめをやめない可能性が高いと思うので、自分の大切さや権利を丁寧に教えることで他者を思いやれるという手法はすごいなと感じた。